

AJS 株式会社 様

業務を止めずにサーバ監視システムをリプレース 高品質を維持したままコスト削減を実現

導入商品

システム運用と ICT 資産の統合管理「FUJITSU Software Systemwalker Centric Manager」
ジョブスケジューリングによる業務の自動運転「FUJITSU Software Systemwalker Operation Manager」

課題

- サーバの静観監視業務の作業効率を上げたい
- 監視システムの可用性を適正なコストで向上させたい
- 顧客業務への影響なしに、監視品質を維持して移行したい

効果

- フィルタリングや定義切り替えの自動化で監視業務の負荷を軽減
- 標準機能での災対構成によって低コストで可用性向上
- 業務を止めることなく、従来と同品質の監視システムを実現

AJS 株式会社は顧客のサーバ監視業務で、静観監視における現場担当者の負荷や監視システムの可用性などに課題を抱えていた。そこで、監視システムを富士通の Systemwalker Centric Manager にリプレース。Systemwalker Operation Manager を組み合わせて静観監視を自動化し、監視業務の負荷軽減と精度向上を実現した。監視サーバ台数を 1/6 以下に削減。さらに災対構成を実現して可用性を向上。独自ツール開発などの AJS ならではの工夫も活かし、顧客の業務を止めずにリプレースを成功させ、監視品質の維持やコスト削減を実現している。

導入の背景

サーバの静観監視で現場に大きな負荷 可用性の向上や業務を止めないリプレースも命題

IT ホールディングスグループの中核を担う AJS。25 年以上にわたり旭化成グループの情報システムの開発・運用保守の実績を持つ。AJS 株式会社の山崎 和人氏は「近年は旭化成グループの SAP 統合を行うなど、約 3 万ユーザーに上る大規模環境で培った豊富な経験とゆるぎない技術、独自のノウハウを強みにソリューションを提供しています。さらにこれら自社の強みを活かしたソリューションのグループ外への横展開にも注力しています」と語る。

同社の業務の一つが基幹システムのサーバ監視である。約 500 台のサーバを対象に、高い業務継続性を維持するため 24 時間 365 日体制で監視している。従来は監視システムに海外ベンダー製品を使用していたが、様々な課題が浮かび上がっていた。

サーバ監視では、毎日数万件発生するイベントをチェックする。定期メンテナンスやオフラインバックアップ、障害対応などの最中、発生するイベントの約 9 割は既知の事象であり、対応せずに静観（無視）する「静観監視」を着実に行う必要がある。

同社の神谷 栄二氏は「従来、毎日の夜間オフラインバックアップでは、オペレーターがイベントを目視で静観の対象かどうか判断していました。安定した監視品質を維持するため、現場に多大な負荷をかけていたのです」と明かす。

可用性の向上も課題であった。同社の河野 一彦氏は「従来、監視サーバは 1 拠点のみに設置・稼働しており、災害発生時の可用性に不安がありました。遠隔地で二重化する災害対策を行い、かつ、実現コストは極力抑えたいと考えていました」と振り返る。また、従来の監視システムは下位バージョンとの互換性が低く、監視されるサーバのバージョンごとに監視サーバが必要だった。その結果、監視サーバは 3 世代で 13 台に増え複雑化した上、ハードウェアやライセンスのコストも問題視されていた。

2013 年 5 月、監視システムのハードウェア / ソフトウェアが保守切れを迎えた。従来製品を継続使用するにしても、移行のための相当なバージョンアップ作業が発生することから、Systemwalker へのリプレースを選択した。「お客様の業務を極力止めずに、従前と同等の監視品質を保ったままリプレースすることが目標でした。そのうえで、業務効率やコストの課題解決にも取り組みました」と神谷氏は話す。

リプレース中はサーバの再起動も問題となる。顧客のシステムは様々な

お客様プロフィール

AJS 株式会社



本社所在地 東京都新宿区西新宿 8-17-1
設立 1987 年 3 月
資本金 8 億円
代表取締役社長 河崎一範
従業員数 545 人 (2015 年 3 月)
ホームページ <http://www.ajs.co.jp/>

事業概要
基幹システムの開発 / 保守 / 運用 / コンサルティング、基幹系データを活用する業務ソリューション、パッケージ開発・販売を柱に事業を展開。IT ホールディングスグループの中核を担う SI 企業。



AJS 株式会社 常務執行役員 IT 基盤事業部 事業部長 山崎 和人氏	AJS 株式会社 IT 基盤事業部 IT 基盤サービス企画グループ グループ長 (兼) 延岡 IT 基盤センター カスタマーサービスグループ長 神谷 栄二氏	AJS 株式会社 IT 基盤事業部 共通システムサービス部 ユーポレートウェアグループ 主査 河野 一彦氏	AJS 株式会社 IT 基盤事業部 プラットフォームサービス部 構築グループ 萩原 貴之氏	AJS 株式会社 IT 基盤事業部 延岡センターオペレーショングループ 設定チームチームリーダー 川越 政美氏
--	--	--	---	---

サーバが混在し、依存関係が把握しづらくなっていた。業務を継続しながらリプレースを進めるために再起動はどうしても避けたかった。

導入のポイント

監視システムに富士通の Systemwalker Centric Manager を採用 クラスタ構成は不要、標準機能のみで災対構成

複数ベンダーのシステム統合監視製品を比較検討した結果、富士通の Systemwalker Centric Manager、運用スケジュールの制御に Systemwalker Operation Manager の導入を決めた。

選定ポイントの一つが静観監視機能の幅広さだ。他製品では対象が死活監視など基本的な監視に限られている。同社の萩原 貴之 氏は「Systemwalker Centric Manager なら通常の監視と静観監視の切り替えを定義変更で自動化できます。そのうえ、ログ監視までカバーしてくれます」と評価する。

災対構成の実現方法も選定の大きな理由となった。「Systemwalker Centric Manager なら他製品と違い、高価なクラスタ構成を追加せずに冗長化が可能だ」と河野氏は説明する。さらに、Systemwalker Centric Manager はクラスタと異なり、監視サーバの切り替えが不要なため 24 時間継続した監視ができ、自身のプロセスの稼働状況も監視できる。この点も魅力だった。

Systemwalker Operation Manager はスケジュール設定の柔軟性が評価された。同社の川越 政美 氏は「お客様独自の特殊な日程に基づくカレンダーでも、Systemwalker Operation Manager ならジョブの実行状況の監視に対して容易に対応が可能です」と利点を述べる。

同時に品質とサポートも重視した。「両製品とも日本製ならではの高品質です。当社はメインフレーム時代から富士通ユーザーであり、富士通の販売パートナーである都築電気も含めた的確な対応、手厚いサポートの実績に大きな信頼を置いています」（山崎氏）。

システム概要

独自ツールを開発し、設定の引き継ぎの効率化と精度を向上 Systemwalker Operation Manager で静観監視を自動切り替え

システム構築ではリプレースに際し、「従来システムから設定を引き継ぐための変換ツールを独自に開発して利用しました」（河野氏）など効率アップと精度の向上を図った。

静観監視については、静観するイベントの判断をフィルタリングで自動化。通常の監視と静観監視の切り替えも定義ファイルの切り替えを自動化することで実現した。「さらには Systemwalker Operation Manager と組み合わせ、定義ファイルを曜日や時間帯に応じて自動で切り替え可能にしました」（川越氏）。監視設定は正規表現ベース、フィルタリング定義は付属のツール Event Designer を使って Excel ベースで行えるようにした。

監視サーバは首都圏と九州のデータセンターで冗長化して災対構成にし、新監視システムとして 2015 年 5 月にカットオーバー。「従来システムの設定を確実に引き継ぐため、並行稼働による検証期間を半年以上設けており現在も継続中です。構築やテストでは、富士通のかゆいところに手が届くサポートや質問に対する素早い回答に助けられましたね」（神谷氏）。

導入効果と今後の展望

自動化で静観監視を最適化し、担当者の負担を軽減 可用性向上とともに監視サーバ台数を 1/6 以下に削減

AJS は監視システムのリプレースにより各課題を解決した。静観監視を

自動化できたことで、「オフラインバックアップ中のログ監視も含め、目視による監視は一切不要になりました。通常の監視と静観監視の自動切り替えも併せ、監視業務の大幅な負荷軽減と精度向上を達成できました」と萩原氏。山崎氏は「担当者がより付加価値の高い業務に注力できるようになっただけでなく、切り替えのスケジュール設定もお客様の細かい要望により応えられます」と続ける。

監視設定は従来、独自言語と専用ツールが必須であり、難易度が高く工数もかかっていたが、「標準技術の正規表現ベースなのでテキストエディタさえあれば簡単に設定できます。フィルタリングの定義は使い慣れた Excel なので、監視設定の難易度が低くなり、その結果、設定作業全体がより効率化され、工数も半減できました」（川越氏）。

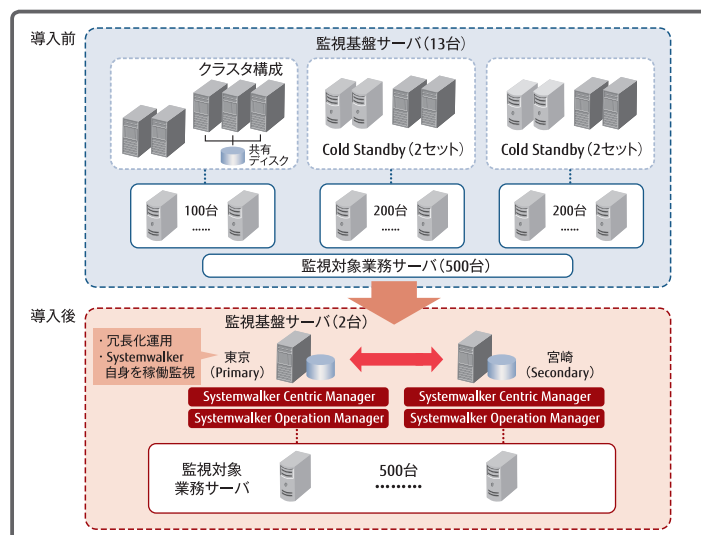
可用性の面でも、「災対構成は Systemwalker Centric Manager の標準機能のみで実現できたため、最適コストの下に可用性を大幅に向上できました。自身の稼働監視も実装でき、コスト削減につながっています。信頼性も従来製品より高く、もし障害が発生しても確実に通知してくれるので、監視システム全体の可用性向上に寄与できました」と萩原氏は語る。

監視サーバ構成も最適化できた。Systemwalker Centric Manager は下位バージョンとの互換性が高く、世代ごとに監視サーバを立てる必要がなくなった。「監視サーバは 13 台から 2 台に集約でき、コストや管理負荷を大幅に削減できました」（河野氏）。

さらには、エージェント導入後に再起動不要などの Systemwalker Centric Manager の特長に AJS の独自の変換ツールや並行稼働などの工夫が加わったことで、「お客様のシステムを停止せずに、従前と同等の品質を維持したまま監視システムをリプレースできました」と神谷氏は強調する。

AJS は今後、セキュリティ強化なども併せトータルでのサービス品質の向上を進めていく。その中で ICT 資産管理など Systemwalker Centric Manager の他機能も有効活用する。「今回のリプレースで得た技術やノウハウ、作成した独自ツールなどを活かし、監視システムの移行ソリューションとして旭化成グループ以外にも外販していきます」と山崎氏は今後の抱負を語った。

【システム構成図】



お問い合わせ先

富士通コンタクトライン (総合窓口) 0120-933-200

受付時間 9:00 ~ 17:30 (土・日・祝日を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

<http://systemwalker.fujitsu.com/jp/centricmgr/>

<http://systemwalker.fujitsu.com/jp/operationmgr/>